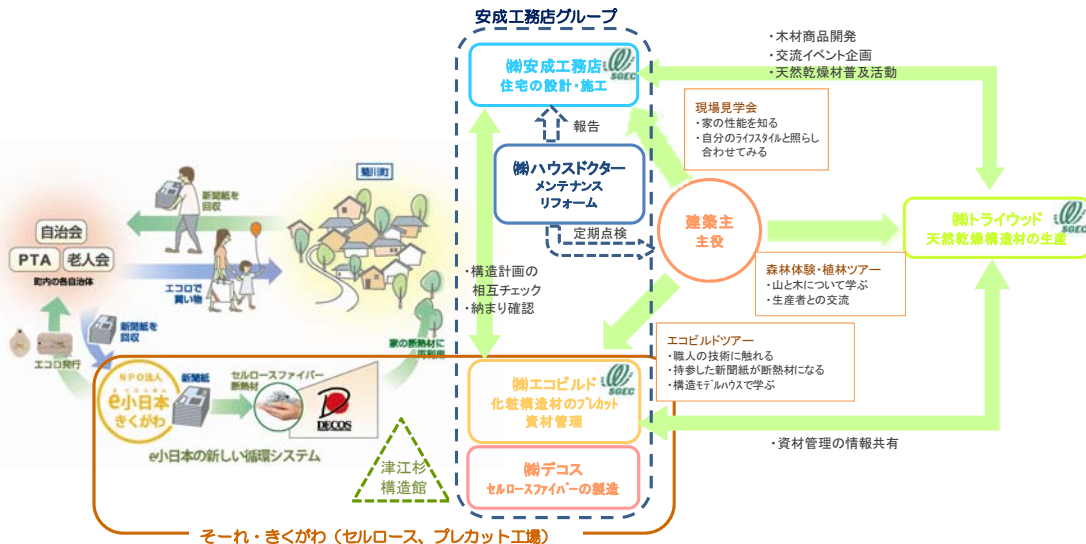


提案名	山・里・まちをつなぐ長期優良住宅先導事業	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	株式会社安成工務店	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

家づくりというのは、継続的に管理された山の木を使えば決して自然を破壊するものではなく、むしろ自然を守ることにつながる。例えばこのような家と山との密接な関係性を住み手に体感してもらうことは、家づくりが循環型社会の一役を担っていることを実感してもらえます。つまり、山では建築主自らが学び、実践し、次世代へ伝えて行く。里では材料の加工や仕上がりを感じ、まちではできる限り環境負荷の少ない素材で、できる限り空備に調機等の機械設頼らない家づくり、その家を建築主が住みこなす。そして工務店はそのバックアップをする。私たちの提案する長期優良住宅とは、建築主が主体的に山・里・まち（家）に関わっている、低炭素型パッシブ住宅です。



■提案内容

①山・里・まちをつなぐ家づくり

建築主は、私たちと一緒に山に行き林業の体験と生産者との交流を通して家と山との密接な関係を学びます。その山の木で家を建て、その山に植林をして循環させる。それを体験してもらいます。里では構造材のプレカットが行われます。山口県下関市菊川町の榊エコビルドでは、熟練の職人が目利きにより製材を適材適所に振り分け、仕口の種類により手加工で刻んでいます。住まい手はこの職人の技をみることで、日本の木造建築の歴史に触れ、家に対する安心感と誇りを得ます。

②断熱材が産む地域循環とその実践

断熱材は自社開発のセルロースファイバーを採用しますが、隣接するプレカット工場と一緒に榊デコス断熱材製造工場も見学します。セルロースファイバーの原料は古新聞ですので、この見学会の参加料は住まい手各自が持参する新聞紙とし、新しい自分の家の断熱材へと生まれ変わっていく過程をみる事ができます。NPO法人「e小日本きくがわ」は、榊エコビルド及び榊デコスと協力して菊川町の新聞紙を回収し、その量に応じた地域通貨を発行して、菊川町で買い物ができるという地域循環を実践しています。現在の菊川町からの回収量は、平成21年実績で年間約42t約40万円分の地域通貨を発行しています。また、下関市の安岡エコタウンでは、住民の新聞紙をNPO法人が回収し、その新聞紙代は自治会の運営費として団地の植栽の剪定などにあてています。

●循環型社会の相關図



●森林体験風景



●化粧構造材加工風景

### ③設備機器に頼らない、低炭素型パッシブ住宅

住宅のQ値を 2.0 W/㎡・K 以下、LCCO<sub>2</sub> の削減量を 25%以上とし、これを環境シミュレーションによって自己評価します。空調機等の設備機器にできる限り頼らない、つまり LCCO<sub>2</sub> の削減につながる住まいや、ライフステージの変化に対応できる住まいのための設計マニュアルを整備します。また、構造材、羽柄材、仕上げ材の木材をすべて国産材とし、輸送エネルギーを最小限にとどめ、CO<sub>2</sub> の削減に寄与すると共に地域の山林業の保全や活性化を促進します。



●メンテナンススクール（板塀塗り）

### ④住まい手が主体的に維持する次世代へ住み継ぐ家

建築主は、建設過程において珪藻土塗りなど、積極的に家づくりに参加し入居後の維持管理に役立っています。引き渡し時に、住まいのお手入れブックを配布し、セルフメンテナンスマニュアルとして活用します。そして随時メンテナンススクールを開催し、住まい手は必ず参加して知識と技術の習得、向上に努めます。また、終の棲家と成りえる家づくりのために、高齢者等級3以上とします。



●お手入れブック

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
森林・樹林体験					●			●	●	●		
アトリエ・塾・工房・工務店見学	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●
メンテナンス・イベント	●	●		●		●	●			●	●	●
	設計打ち合わせ	新築計画	香の全戸訪問			珪藻土教室	木工教室			秋の全戸訪問	年末準備打ち合わせ	O2感測器取り付け

●各1年間のスケジュール



●工事進捗状況公開（弊社HP）

### ⑤家とランニング消費エネルギーを公開し普及促進を図る

建築途中と完成時の2回現場見学会を開催し、かつ、工務店のHPにて施工写真とその解説を随時アップします。入居後の家の消費エネルギーを省エネナビによって集計し、工務店のHPにて公開します。



●施工報告書

### ⑥第三者機関ハウスジューメンとの連携による品質の確保と住宅履歴の作成

設計性能評価に加え建設性能評価を受け、建築主への客観的な家の性能の確認と第三者評価により徹底した品質の確保を行います。ハウスジューメンとの連携により、確認申請書、性能評価書、図面等は住宅履歴システムでデータ管理します。また、最新情報を更新していくことで次世代へ受け渡した後も生きた情報として活用できます。

### ■提案者からのコメント

安成工務店は来年60周年を迎えます。地域に支えられ共に発展してきました。環境についても一早く取り組み、四半世紀にわたりいろいろな事にチャレンジしてきました。今回の提案はその積み重ねを体系的にまとめたものが骨格となっています。そしてこの提案を通してあらためて思うことは、2つの本質を見失ってはいけないということです。1つ目はエコ住宅や省エネ機器というと、とにかく光熱費がいくら得になるのか？何年で回収できるのか？ということに目が行ってしまいがちですが、本当はその先にあるものが大切で、その本質は地球を美しく維持すること、そして子供たちに受け渡すことです。それを家づくりを通して体験する。省エネ機器を使ったり、自然素材を使うという単純なものだけではなく、住宅会社に求められるのはその理由と意味をお客様に体感してもらえる仕組みづくりではないかと思えます。2つ目は、企業は地域に根差し、地域から孤立してはいけないということ。私たちは新聞紙から断熱材をつくるというリサイクル活動を通してヒトとヒト、ヒトと会社、会社と地域をそれぞれ結んでいます。この活動は単なるリサイクルにとどまらず、新しいコミュニティ形成の一助であると共に、地域に還元する仕組みをつくることによって循環する社会をつくり出すきっかけとなっています。

今回採択されたことによって、私たちの取り組みがたくさんの方の目に触れることになると思います。私たちの提案が何かのヒントになって、いろいろな所でいろいろなカタチの循環型社会が生まれれば最高です。美しい山と里とまちが保たれ、次の世代に胸を張って受け渡すことができる地球でありたい。

